



2006年7月21日

ロールス・ロイス社、A350XWB 向け新エンジンの開発および  
Trent1000 受注を発表  
～2006年ファンボロー・エアショーにて～

【2006年英国ファンボロー・エアショー発】民間航空、防衛航空、船舶、エネルギー各分野の世界市場において事業展開するロールス・ロイス社（本社：英国ロンドン、CEO：サー・ジョン・ローズ、以下「ロールス・ロイス」）は 2006年ファンボロー・エアショーにおいて、Trent1000 エンジンおよび V2500 エンジンの受注、A350XWB 向け Trent エンジン開発、および最新の民間航空機市場予測を発表しました。

### Trent1000 エンジンの受注

インターナショナル・リース・ファイナンス・コーポレーション（ILFC）とペガサス・アビエーション・ファイナンス・カンパニー（ペガサス社）から Trent1000 エンジンを受注しました。航空機リース会社である両社との契約総額は約 10 億米ドル（約 1,170 億円\*）に相当します。

航空機リース会社として世界最大の ILFC との同 Trent エンジンの契約内容は、ボーイング 787 型機ドリームライナー確定 20 機およびオプションであり、リストプライスで 6 億米ドル（約 702 億円）となります。また、長期的かつ包括的なアフターメンテナンスサービス、TotalCare® が含まれています。Trent エンジン搭載ボーイング 787 型機の ILFC への引渡しは 2010 年からの予定となっています。

もう一方のペガサス社との契約は 3 億米ドル（約 351 億円）相当で、Trent1000 搭載の航空機 4 機が、イタリアのブルーパノラマ航空にリースされる予定となっています。

予定通り今年 2 月に初号機の試験を終えた 3 台の Trent1000 エンジンは、現在テスト運転中です。さらに開発用エンジンが組み立てられており、ほぼ完成に近づいている状態です。

Trent1000 はすべてのボーイング 787 型機に搭載されます。来年第 1 四半期にはロールス・ロイスのボーイング 747 フライイング・テスト・ベッドにて試験飛行が行われる予定です。エンジンの認証取得は来夏を予定しており、その後、787 ドリームライナーによる初飛行が行われます。そして 2008 年半ば、ローンチカスタマーである ANA によって世界初の商用就航となります。

### A350XWB への Trent エンジンの受注

ロールス・ロイスは、250 から 300 席規模のエアバス社製次世代航空機 A350XWB の全機種に、Trent エンジンを提供することで基本合意に至りました。Trent シリーズの 6 種目となる

\* 1 ドル = 117 円にて換算（以下すべて同じ）

このエンジンは、目下、ロールス・ロイス製エンジン搭載で運航中、または予定のエアバス機ファミリー全てに搭載可能なエンジンです。

ロールス・ロイスの民間航空部門社長であるマイク・テレットは、次のように述べました。「このプログラムにおいて確固たる地位を構築することは、当社にとって重要なことです。この新しい挑戦を通じてエアバス社との協力関係がさらに強固なものとなり、次世代ワイドボディ旅客機市場におけるリーディングエンジンサプライヤーとしての基盤が築かれることを期待しています。」

この新しいエンジンは、RB211 シリーズはもとより Trent ファミリー全てを含むロールス・ロイス製大型エンジンの特徴であるスリーシャフト構造を基に設計される予定です。

### **V2500 エンジンの受注**

ベトナム航空がエアバス社製 A321 型機 10 機向けに V2500 エンジンを選定しました。これは 5,500 万米ドル（約 64 億円）相当の契約です。

V2500 エンジンはロールス・ロイスが主要株主であるインターナショナル・エアロ・エンジンズ社（IAE）の製造です。IAE は当社の他、プラット&ホイットニー社（Pratt & Whitney）、財団法人日本航空機エンジン協会（Japanese Aero Engines Corporation）、そして MTU エアロエンジンズ社（MTU Aero Engines）といった企業により構成されています。

すでに 1,300 基を超える V2500 エンジンを搭載した飛行機が世界中で納品されており、累計飛行時間は 4,000 万時間以上に達しています。

### **最新の民間航空機市場予測（ロールス・ロイス調べ）**

ロールス・ロイスは今後 20 年間において、ビジネスジェットから大型旅客機に至るまで世界中で 51,000 機の新規需要が見込まれ、その背景にアジア環太平洋地域における継続的な成長があると予測しています。

ロールス・ロイスがまとめた最新の民間航空機市場予測では、航空機市場の伸展に呼応してエンジン市場は 114,000 基、潜在価値にして 6,000 億米ドル相当（約 70 兆円）の需要が見込まれます。

また、高騰する燃油費の影響を受け、世界の航空各社は運航コストを抑えるべく、より運航効率の高い次世代旅客機に今まで以上に注目することが予測されます。

年次ベースの伸びとしては、広範な業界データを基に今後 20 年間におけるアジア環太平洋地域の航空需要は、毎年平均して 6.6 パーセントずつ伸びると予測しています。

また、110 から 180 席規模のナロー・ボディ小型旅客機は、29,000 基のエンジン、1,850 億米ドル（約 21 兆円）相当の需要を産出すると見込んでいます。

しかしながら、ロールス・ロイスにとって最も大きな価値を生み出すのは、250 から 350 席規模のワイドボディ中型旅客機です。エンジンの売上予測価値は 2,300 億米ドル（約 26 兆円）に達し、そのうち 40 パーセントはアジア市場のシェアとなると見込まれます。

さらに、400 席以上の大型旅客機分野においても、貨物機を含めて 850 億米ドル（約 9 兆円）の価値を生む可能性がある市場と予測しています。

ビジネス用航空機の大幅な成長は、社用ジェット機市場が活況であることが主な要因と考えられており、700億米ドル（約8兆円）に相当する、51,000基のエンジン需要を生み出すと予測しています。

同市場予測の詳細については、ロールス・ロイスのホームページ、[www.rolls-royce.com/civil\\_aerospace/overview/market/outlook/default.jsp](http://www.rolls-royce.com/civil_aerospace/overview/market/outlook/default.jsp) をご覧ください。